禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D15

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度技能検定
３級 仕上げ 学科試験問題
（機械組立仕上げ作業）

1. 試験時間　　1時間
2. 問題数　　30題
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
   イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
   ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
   ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　リーマの削り代は、少ないと食い付きが悪いので、仕上がり寸法がφ10 mmの鉄鋼材料であれば、削り代は1～2 mmが適当である。

2　やすり目につまった切りくずを落とす時は、やすりブラシを上目に沿ってかける。

3　捨てけがき線とは、本けがきをするための下けがき線であり、本けがきが終わったら消さなければならない。

4　鋳造品(黒皮物)などに、最初に行うけがきを一番けがき、その加工仕上げ面に施すけがきを一般に、二番けがきという。

5　ダイスの食付き部は、一般には、表面が2～2.5山、裏面は1～1.5山となっている。

6　研削といしの3要素とは、と粒、結合剤、組織である。

7　器差が+10 μmのマイクロメータで測定したとき、軸径の読みが80.00 mmの場合、実寸法は80.01 mmである。

8　0～25 mmの外側マイクロメータを格納する場合、両測定面は少し開けておく。

9　パレート図とは、項目別に層別して、出現頻度の大きさの順に並べるとともに、累積和を示した図である。

10　ヒストグラムの山のすそが広がるのは、ばらつきが小さくなったことを示している。

11　一般に用いられている平歯車の圧力角は30°である。

12　ねじの呼び径は、有効径で表す。

13　キーは、軸とボスとの動力伝達のために用いられる機械要素である。

14　NC旋盤は、テーパ削りや球面削りができない。

15　マシニングセンタは、自動工具交換装置を備えている。

16　高速回転軸の軸受に使用する潤滑油は、粘度の高いものを選ぶとよい。

17　水溶性切削油剤は、油が水に溶けたものなので、腐ることはない。

18　鍛造は、金属を加熱溶解し、型に流し込み製品をつくる。

19　一般に、鋳鉄は炭素鋼よりももろい。

20　鋼の表面硬化法の一つには、浸炭焼入れがある。

21　日本産業規格(JIS)によれば、電着塗装とは、導電性のある物体を水に分散した塗料の中に入れ、物体と他の金属体とが両極になるようにして電流を通し、物体に塗料を塗る方法である。

22　日本産業規格(JIS)の機械製図によれば、Rは直径を表す。

23　しまりばめとは、常に、締め代ができるはめあいをいう。

24　労働安全衛生法関係法令によれば、研削といしを取り替えたときには、1分間以上試運転をしなければならないと規定されている。

25　工作機械のレベル出し作業の確認には、一般的に水準器を使用する。

26　シールテープの巻き方は、一般に、ねじの締付けにより剥がれない方向に巻き付ける。

27　一般に、締め代のあるはめ合わせ部分を圧力をかけて押し込む作業を圧入作業という。

28　回転機器のロータは、静的につり合っていれば、動的なつり合いを見る必要はない。

29　工作機械から発生する音の騒音レベルは、dB(デシベル)で表す。

30　日本産業規格(JIS)によれば、ボール盤の主軸テーパ穴の振れを検査するには、テストバーを主軸穴に取付け、ダイヤルゲージでテストバーの振れを読む。